



「うれしいような うれしくないような」

住職

以前、姉妹が「百歳 百歳」ということでテレビをにぎわしていましたことを覚えておられるでしようか。その頃は元気はつらつと百歳は稀でした。今は百歳以上の人人が六万人を越え、九十歳代は二百万人日本にはいるそうです。当寺の檀家さんでも百歳代の人が二人おられます。二人とも女性です。足腰はかなり弱つておりますが、家の中では自分の力で動いています。立派なものです。百歳以上の人人が珍しくない時代になりました。人生は「五十年」と言わされてきましたが、それが医学などの驚異的な進歩によって、「八十年」になり、今では「人生百年」の時代を日本は向かえようとしています。

長寿は古来より人間が求め続けた永遠のテーマです。しかし、「心」ではそういう気持ちを持つていても、「身」の方はそれについていくのが大変です。老いてきますとまず足腰が弱り、

動きが鈍くなります。頭脳の働きも衰えて物忘れも日常化してきます。こんなはずではなかつたのにと思ひながらの日々です。他人のことではありません。わが身のことです。

以前お参りに行つた時のことです。ピンポンを押しても返事がない。なかなかドアが開かない。留守と思い帰りかけると、ドアが開き出てこられました。ドアホンが鳴つても体がすぐに動かないとのこと。「生きているだけでも大変なんですよ、御院さんにはまだわからないでしようが」と老いの実態を切実に話された老婦人の言葉がよみがえります。思いもしない長寿の時代になりますと社会状況も変わりました。老人介護の施設が増えました。デイサービスの車も町中を頻繁に行き来しています。健康食品や若返り薬の広告が町にあふれ、健康保持や体力増進のためのジム通いの人なども随分増えています。私たちの関心事はなによりも「生きること」です。生きていかねばならない。そのためには食べねばならない。食べるにはお金がいる。だから我を忘れて働く。気が付いたら知らぬ間に老いたわが身がある。そこで老いを少しでも遅れさせうと思ひブレーキ

をかけようとする。最新の医療で病いの回復をはかる。しかし、このような人間の努力も「死」から逃れることはできません。食べても食べなくとも死んでゆかねばならない現実を認めざるをえません。動物の一生は「食べて・寝て・次代に続く子供を育てて」終わりです。私たちの一生が動物としてだけで終わるなら「人生百歳の時代」はうれしいのやら悲しいのやらわかりません。あそこが悪いここが痛いと、思うように動けないわが身との付き合いが長くなつたというだけになりかねません。

「あなたはこの世の命が終わつたら、どこへ行くのですか」と聞かれたら、「親のところに帰ります。お浄土に生まれていきます」と私は答えます。

「あなたは生きて、この世に何を残したいですか」と尋ねられたら、「自分の生き様です。如来さまにいだかれた生き様です」と言います。

「痛い、つらい、まわりに迷惑をかける、こんなことなら死んだ方がましだ。何故つらい思いをしてまで生きていかねばならないのか」との思いが心の中をよぎるのが人間です。けれども、これだけで私たちを終わらさないのが阿弥陀さまの御心です。

神戸市民ラジオ体操の会「五千回」

谷藤清子さん表彰おめでとうございます

②ラジオ体操に参加されるようになつたきっかけは何ですか？

『谷藤』 私は四十五、六十の頃、ストレスから喘息になり、入院ばかりしていました。



なかなか治らないので、良いお医者さんを探し、全国から重病の患者が来るといふ金沢の病院に行きました。そこで医療はとてもつらいものでした。例えば、身体を鍛えるために、朝早くから寒い雪の中を歩かされたのです。あまりのつらさで倒れ、おんぶしてつれて帰つてもらつたこともあります。その歩くことがよかつたのでしょうか。六か月後、退院するとき先生から「谷藤さん、散歩が大事。帰つてからも山登りとかして歩きなさい。」と歩くことを勧められました。

帰つてからも山歩きをしていましたが、舞子の佐野病院に二年半入院、その後も近くの二つの病院で入退院を繰り返して、ようやく治ったのです。そん

な時、友達がラジオ体操に誘ってくれました。毎朝五時半に起き、雨の日も冬のまだ暗く寒い日も毎日休まず、妙法寺川公園まで歩き、体操をしています。

③過去に喘息との大変な戦いがあつたのですね。治療を続けることが出来たのは、どうしてだと思われますか？

『谷藤』 それは健康維持のため。そして、終わつたあと、友達と喫茶店へモーニングを食べに行く楽しみがあるからです。

④信行寺の行事にも熱心に参加されていますが、いつ頃からの「縁ですか？」

『谷藤』 昭和三十三年からです。それからずつとお参りさせてもらつています。



一つづくで仕方なかつた息の苦しさと戦いながらも寿命があり、生きる人生は苦である。でも、今まで乗り越えて来られたのも阿弥陀様のお蔭。お淨土に生まれさせて頂けると思い一日一日を感謝しています。』

谷藤 清子

第三十五回夏季特別法座

妙好人・了妙

副住職

八月十九日（土）夏季特別法座を行いました。今

回で三十五回目を迎えます。今回の法題は、「お念佛の舟に乗せられて」でした。當麻曼陀羅（奈良、當麻寺の本尊）のことを交えて法話がありました。

昼食後、みやび会のコーラス、ヨガ体操を行いました。また、副住職による作法や仏教に関する疑問などの話がありました。

来年も多くの方々の参加をお待ちしております。



秋の彼岸法要で、高田先生が了妙さんという妙好人のことを少し話してくださいました。心に残るエピソードだったので、あとで自分でも調べてみました。

蓮如上人が奈良の吉野に行く途中、往来された街道に八木というところがあります。今の近鉄大和八木駅のあたりです。そこに「よつ女」と呼ばれる女性が居ました。彼女は若くして夫、息子、嫁に次々と先立たれるという不遇の人生で、晩年は一人糸を紡いで暮らしていたそうです。

ある夏の暑い日に、彼女がいつものように糸を紡いでいると、蓮如上人が一杯の飲み水を所望されたそうです。そのご縁で、蓮如上人が吉野に赴くときには立ち寄って、仏法をお説きになるようになりました。

念佛を称えつつ、糸車を回す生活を続けていくな

かで、蓮如上人が立ち寄られる度にお念仏のいわれを聴聞されたのでしょう。そのうち蓮如上人から「了妙」という法名をいただきました。蓮如上人は草鞋が足にくいこむほど歩かれたと聞きますが、行く先々の道中でのご縁も有難い仮縁となつたのですね。

いつものように立ち寄られた蓮如上人が了妙にたずねます。

「了妙や、念佛称えて いますか？」

「はい、毎日こうやつて糸を繰りながらお念佛称えさせてもらつてます。」

「了妙や、糸を繰りながら、お念佛称えるのですか？ 每日お念佛称えて、糸を繰つて いるのではな

いですか？」

それを聞いた、了妙はハタと気づいたのです。

「そうでしたそうでした。日々お念佛のなかで、こ
うやつて糸を繰らせていただいております。なんま
んだぶ、なんまんだぶ」

ちよつと聞いただけでは、糸繰と念佛の順番が違
うだけのようですが、「糸を繰りながら、念佛」と
に候ふ」と。

他力の信心に目覚めた了妙さんのことだが、「蓮如上人御一代記」には次のようにあります。

「蓮如上人仰せられ候ふ。堺の日向屋は三十万貫を持ちたれども、死にたるが仮には成り候ふまじ。大和の了妙は惟一つをも着かね候へども、このたび仮に成るべきよど、仰せられ候ふよし」と。

花の？女子高校生になりました！

米田 光輪



楽しかった中学校。

大泣きした卒業式。あれから半年経ちました。

た。私は、幼稚園の先生になりたい、子供達にいろんなことを教えられるようになりたいと考えて、専門校の幼稚園教育コースに進学しました。他の学校と違うところは、宗教の授業があつて、自然と身に付き、仏教讃歌の教えがあることです。心の支えとなり、人と人の繋がりの大切さを深く感じています。

部活動は演劇部に入りました。人前に立つことで自分を変えてみたかったこと、仲間と楽しく活動したいと思つたからです。実際は、なかなか意見がまとまらなくて辛いな、と感じることも多いです。難しいです。とにかく、仲間と共に笑顔のたえない三年間にしたいです。将来も子供達といつも笑顔がたえないでいられる先生になること、これが夢です。佛教を基本に成長できる環境に感謝しています。

日頃の疑問を考えよう

Q

長男の家ではないので、仏壇がありません。「亡くなつた人もいないのに仏壇を迎えるとその家に死人が出る」とも言います。本当ですか？

A

そのように考えるのは、仏壇は死者の入る所という誤った解釈に立つてゐるからではないでしょ
うか。仏壇は、死者や先祖の入る所ではなく、「本尊・阿弥陀如来の館です。仏壇を家庭の中心と考え、手の合わせやすい場所に安置するとよいでしょう。仏壇とは、門徒としての日常生活の心のよりどころです。

Q

朝一日の無事を感謝して手を合わせています。このようなお勤めの仕方でよろしいのでしょうか？



A

真宗のお勤めは、死者に回向したり、祈祷や精神修養のためにしたりするものではありません。お釈迦様の説法や宗祖のお念仏のあじわいを繰り返し拝読することによって、お念仏の信心を喜ばせていただく報謝です。亡き人やご先祖は、その仏様のすばらしいお念佛とそのことを喜ぶことのできる人間としての命を伝えてくださった方として偲び、感謝するのです。お忙しいとは思います、朝夕二回、お経をあげられるといいですね。線香は立てずに火をつけて寝かせるのが作法です。

A Q

お供えや仏具の飾り方を教えてください。

仏壇を厳かに飾ることを「莊嚴」といいます。「真つ先にお仏飯を」といわれるよう、朝、仏壇を莊嚴するためにお供えをします。しかし、「靈膳といわれるような仏様や亡き人に差し向けるものではありません。また、真宗では、お水を供えないのが昔からのしきたりです。仏具は、仏壇によつて異なることがあります、三具足もしくは五具足をバランスよく飾りたいものです。図を参照して、並べ方

A Q

引っ越すことになつたら、仏壇はどうすればよいでしょうか？

仏壇を移動させなければならぬときは、移動させる前と後に遷仏法要（いわゆるお性根抜き・入れの法要）をするとよいでしょう。

お気軽に質問してくださいね。お待ちしています。



を確認してみましょう。蠟燭立、香炉に足がある場合は、三本の足のうち一本が正面にくるように置きます。



写真1



写真2

信行寺行事予定とご案内

◆報恩講法要

十一月十六日（土）法話 天岸 浄円 先生
十一月十七日（日）法話 住職

二日間とも午後二時より四時までです。
ご都合に合わせて、一日でもお参り下さい。

十六日にはお斎があります。

◆新春初法座

平成三十年一月五日（金）午後一時より

お正月をお寺で楽しくお迎えしましょう。

お勤め、法話の後、皆さんと楽しく語らいながら、御馳走（お世話の方々が手作りの料理を持ち寄ってくださいます）をいただきます。

編集後記

前号（四十六号）でお願いしましたアンケートのご協力ありがとうございました。貴重な意見、「感想を多数寄せただき編集者一同喜んでおります。今後の「ほのぼの」作成の参考にさせていただきます。

ご住職、副住職の内容に興味を持たれ、楽しみにされている方が多くありました。今後も有難いお話を書いて頂きたいと思います。

また「日頃の疑問を考えよう」「コーナーも続行いたしますので仏事に関する」とを一緒に学んでいきましょう。今号に谷藤清子さんのお話しを記載しておりますが、これは谷藤さんのアンケートの回答を踏まえて、インタビューをさせていただきました。「」の様に皆さんの体験を記載したいと思っておりましたので、沢山のお話を聞かせ下さい。

表紙の写真は宇治の平等院鳳凰堂がライトアップされて、窓から仏様のお顔が見えたのを写しました。